

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 「夢や希望をかなえる学校」「安全で安心な学校」「地域に根ざし信頼され愛される学校」
- 多様な個性をもつ生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、「社会を生き抜く力」を身につけるための基になる「確かな学力」「社会人基礎力」をはぐくむ。
 - 安全で安心な学びの場で、思いやりと感謝の気持ちを大切に、人権尊重の教育を推進して、互いに認め合い尊重しあう「豊かな心」をはぐくむ。
 - 厳しさの中にも、やさしさ・温かみのある丁寧な指導を通して、規範意識や自尊感情を高め、「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する力」をはぐくむ。

2 中期的目標

- 「確かな学力」「社会人基礎力」の育成**
 - 「わかる授業」の展開により、自信や達成感を持たせ「学ぶ楽しさ」を知ることで、学習に向かう姿勢と基礎学力の向上をはかる。
 - 生徒一人ひとりの実態を把握し、主体的な学びを実現するための授業力向上に取り組む。
 - ICTの活用等を通して、対話的な学びを実現するための授業実践に取り組む。
 - 学んだことを活用し、自らの可能性を生かすことのできる深い学びを実現するための授業実践に取り組む。
 - 多様な進路実現のための学力向上および社会人基礎力の育成に取り組む。
 - 3年間を見通したキャリア教育計画により、学びに向かう力を育成する。
 - 個々の目標に応じた進学支援体制を構築し、生徒の進路実現に取り組む。4年制大学・短期大学の進学率(H29:25%、H30:24%、R01:26%)を、令和4年度には30%とする。
 - コース制(スポーツサイエンス、情報技術専門及び総合系)の検証とブラッシュアップに取り組む。生徒向け学校教育自己診断における「授業が分かりやすい」(H29:53%、H30:44%、R01:51%)を令和4年度には、55%とする。生徒向け学校教育自己診断における「進路指導が充実している」(H29:67%、H30:50%、R01:56%)を令和4年度には、60%とする。
- 「豊かな心」の育成**
 - 教育相談体制を充実させ、教育支援委員会を有機的に運営することによって、一人ひとりを大切にする教育を推進する。
 - 学校生活支援カードの活用やきめ細かい生徒の実態把握により、情報を共有して迅速に対応できる支援体制を整える。
 - あらゆる教育活動を通じて、人権尊重教育を推進する。
 - 学校いじめ防止基本方針の徹底をはかり、いじめ対策委員会を有機的に運営することによって、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に取り組む。
 - 3年間を見通した人権教育計画により、思いやりや感謝、他者を認める人権尊重の精神および自尊感情を育成する。
 - 教職員の人権意識向上のため、教職員向け人権研修を実施する。
 - 多様な人間関係の中でコミュニケーション能力を養成する教育を推進する。
 - クラス開きプログラム等の人間関係構築プログラムの研究および導入に取り組む。生徒向け学校教育自己診断における教育相談関連の肯定的回答(H29:54%、H30:51%、R01:53%)を令和4年度には、65%とする。生徒向け学校教育自己診断における人権教育関連の肯定的回答(H29:67%、H30:53%、R01:56%)を令和4年度には、65%とする。
- 「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する力」の育成**
 - 規範意識と社会性を高める教育を推進する。
 - 一人ひとりを大切にする丁寧で粘り強い生徒指導により、「なぜ」ルールを守ることが必要なのかを理解させ、遅刻者数の減少とマナーの向上に取り組む。
 - 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒自らが積極的・自主的に活動できる力を育成する。
 - 3学年を見通したLHR・総合的な探求の時間の計画により、主体的に考える力を育成し、早い時期から自分の将来について考えさせる。
 - 部活動の活性化と生徒会活動、生徒委員会活動を充実させ、主体的に活動できる力を育成する。年間遅刻総数(H29:2185人、H30:2717人、R01:3027人)を令和4年度には、2000人以下とする。部活動参加率(H29:46%、H30:44%、R01:38%)を令和4年度には、50%以上とする。生徒向け学校教育自己診断における特別活動関連の肯定的回答(H29:60%、H30:54%、R01:58%)を令和4年度には、65%以上とする。
- 地域に根ざした学校づくり**
 - 広報活動を充実させ、「魅力的な学校」「行きたい学校」としての認知度を高める。
 - 学校Webページや中学校訪問・学校説明会等を活用し、本校の教育活動の情報発信に努める。
 - 家庭や地域との連携・協力体制の充実をはかり、生徒の自立を支援する。
 - 学校Webページの定期的更新を行い、学校の情報発信に努める。
 - PTA活動内容の充実により、PTA行事や学校行事への保護者の参加を増やす。
 - 地域の活動や地域に向けた取り組みに参加することで生徒に自己有用感をもたせ、地域に貢献する意識を育成する。
- 教職員の長時間勤務の縮減および健康管理**
 - 全校一斉退庁日、ノークラブデー(部活動休養日)の明確化に努める。
 - スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、外部人材の有効活用に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒：肯定的回答の高かった項目は、「自分は校則を守っている」(78.7%)、「成績の内容や他人に知られたくないことなどの個人情報を守られている」(73.6%)、「進路についての情報を知る機会や場所がある」(72.4%)で、昨年度と同じであった。否定的回答が高かった項目は、「学校生活について、先生の指導は納得できる」(41.1%)、「学校の図書館を利用したことがある」(42.9%)、「地域の方と交流する機会があった」(43.1%)であった。指導内容について生徒が納得できるよう、引き続き丁寧な話をしていく必要がある。新型コロナウイルスのため、多くの地域イベントが中止になり、昨年に比べて地域交流の機会が激減してしまった。コロナ影響下においても可能な地域交流の新しい在り方を模索していく必要がある。</p> <p>保護者：肯定的回答が高かった項目は、「学校は将来の進路や職業などについての適切な指導を行っている」(73.9%)、「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」(69.2%)、「学校は家庭への連絡や意思疎通を行っている」(67.2%)で、昨年度と変わらない。否定的回答が高かった項目は、「子どもは学校の授業が分かりやすく楽しいと言っている」(46.4%)、「子どもは学校の授業がためになっていると言っている」(43.1%)で、こちらも昨年度と同じく、授業に対する保護者の満足度が低い。学校運</p>	<p>【第1回】(書面による開催)(7/15)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい学校経営計画だと思った。文章に表れてこない行間にも、先生方が日々努力、奮闘されているお姿を拝見する思いがする。人権教育に重点を置かれていること、若い先生方を中心に授業研究を進めておられること等、大変心強く思う。大変な状況下でのスタートとなったが、地域の学校として、ともに協力し頑張っていきたい。 ・本年度は全教職員が志願者増加に向けて、ベクトルを合わせるなどの強いメッセージが必要だ。 ・定量目標が目立つが、定性目標も具体的に知りたい。 ・全生徒が、目標を持った進路へ行くことを望む。 ・校長をトップに学校全体で頑張っておられる様子がよく伺われる。私自身わずか3年間だが学校長として心がけていたことは、教職経験の少ない教員の中から毎年一人ずつリーダーを作ることであった。そのシステムが「授業研究会」であった。それを委員会組織とし、その長を5~10年程度のヤングミドルリーダーに務めさせ、授業研究を学校全体で行えるようにするチームビルディングを経験させ、一定の効果があつたように思われる。御校に置かれても、校内授業研究会を通して、若手のリーダーを育てていただければと思う。 ・人間構築力が弱く、現在の生徒たちに、ソーシャルスキルトレーニングを実施されるのはとても良いことだ。

営協議会の委員に授業見学をしていただき、高い評価をいただいている授業での取り組みなど、来年度はぜひ保護者の方々に実際に授業の様子をご覧いただく機会を設けたい。合わせて授業力向上のための校内研修を継続していきたい。

教職員：肯定的回答が高かった項目は、「教育相談体制が整備されており、生徒が色々な人と相談する機会が保障されている」(87.2%)、「生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」(79.5%)で、昨年度と同じであるが、肯定率は大幅に伸びている(特に教育相談体制は9.7ポイント増)また、「学校の教育課程について教職員で話し合うことがある」(82.1%)は、昨年度から14.6ポイント増えており、今年度かわち野今後検討PTにおいて新教育課程の検討を繰り返し、成果を全体共有できたことが大きく影響していると思われる。否定的回答が高かった項目は、「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について教職員で話し合う機会がある」(42.1%)「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度に生かしている」(43.6%)、1月に予定していた教職員人権研修が緊急事態宣言発令のため、2月15日に延期して実施した。また、各分掌の年度末総括の内容や、今年度の学校経営計画評価の内容を全体共有して、次年度の新たな取り組みに繋げていきたい。

【第2回】(11/30) 授業見学の後、「かわち野高校の特徴と授業力の向上について」協議

生徒の学習意欲の向上、そして自尊感情をいかに育てていくか。それをテーマに、声掛けや、指導をお願いしたい。

(1) 情報や英語など、いくつかの教科においては、中学からの積み重ねの要素が大きいため、中学までの段階で、自尊感情を持たずにきている生徒もいると思われる。だからこそ、学習意欲を向上させ、自尊感情を高めることができるような声掛けを学校全体でお願いしたい。

(2) 息子はよく学校での出来事をよく話をしてくれるが、その中で、授業についての話も聞くことがある。どの先生も授業はわかりやすいが、指導だけに傾倒している先生の授業はわかりにくい。その授業については、他の先生に聞きに行っている、と言っていた。

生徒が授業に取り組めるような様々な努力が、授業見学の中でも見えた。

(1) 英語は中学からの積み重ねの要素が大きいため、英語が苦手な生徒もいる。

その中で、T-NETの活用や、ゲーム性を持たせての授業展開など、生徒が前向きに取り組めるような活動を実践していて、非常に良いと感じた。

(2) 障がい者スポーツを授業で取り組んでいることは、他にも紹介したい内容だった。

(3) 障がい者スポーツは運動量が少ないが、その中でも積極的に取り組ませるのはすごいことだ。

(4) 障がい者スポーツを実技だけでなく、座学などでも取り組めばよいのではないかと。

生徒の制服や髪型を通して、きっちり指導が行き届いている点や、校内がクリーンである点など、生徒が学習に取り組める環境づくりがしっかりされている。

(1) 一人ひとりを大切に、根気強く生徒と対話をしながら日々指導を行っている。

(2) LAN 教室や廊下など、ほこりやごみがほとんどなく、非常にきれいな環境であった。生徒が学習しやすい環境づくりを熱心に行っている姿が見えた。

専門コースの方向性については、生徒が社会に出たときに必要となる能力の育成を目標とする。

(1) スポーツサイエンス専門コースは、リーダーシップの養成や、聞く側の在り方、協調性など、社会人として求められる能力の育成を行っていく。

【第3回】(1/25)

・令和2年度学校経営計画について

1. 「確かな学力」「社会人基礎力」の育成について

・図書館の利用推進に関して、総合的な探求の時間や授業で活用しながら活性化してほしい。

2. 「豊かな心」の育成について

・学校教育自己診断【教職員】のうち、8. 「人権尊重」に関する肯定値が低いと、職員会議や学年会で話題に上げていけばもっと向上できるのではないかと。

・「いじめが起こった際の体制」についての肯定値は高いので、事象が起こったら迅速に対応できていると思われる。

・私は日頃から中学校の教職員に、同様のアンケートで大半の生徒が「学校に行くのが楽しい」と回答しても、否定的な回答をした少数の生徒の訴えをしっかり受け止めることが大切だ、と伝えている。

3. 「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する力」の育成について

・学校教育自己診断【生徒】で、7. 「校則を守っている」約80%、4. 「先生の指導は納得できる」約46%とギャップがある。生徒はどう感じているのか知りたい。

・スカートの下にジャージを着ている女子生徒は、外見が悪いので指導をお願いしたい。

・令和3年度学校経営計画策定について

1. 「確かな学力」「社会人基礎力」「真面目に努力し続ける力」の育成について

・がんばる生徒をほめる、表彰することを取り入れたのがよい。情報科では検定に力を入れた指導をしているが、生徒が認められる機会であり、チャレンジできるのがよい。

3. 「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する力」の育成について

・規範意識の育成に関する盾津中学の過去の乗り越え例でいうと、教職員が一枚岩になること。あれもこれもではなく、すべきことを取舍選択し、精査して教職員が指導内容を理解した上で生徒に納得させ、みんなで守らせることだと思う。

・その他、いただいた意見等

・かわち野高校では、教職員の温かい指導が受け継がれていると思う。根気・元気・勇気で信頼を大切に今後がんばってほしい。

・学校事務就職が複数機会へと検討されているなど、今後ますます学校は忙しくなるだろう。そんな中、「丁寧な対話で納得させる指導」と「自ら考える力の育成」は相反する指導で、負担が大きいのではないかと。今の若い人には、自らの意見を発信できる力が不足していると感じており、自主性を育てたい。

・子どもに意思を問うても、なかなか自分の意志や意見が出てこない。自分で進路について考え、決意して、自分なりの根拠をもってやる気を出してほしい。

・小さな成功体験を積み重ね、自己肯定感を高める指導を今後も期待したい。

・今回の意見交換を踏まえて学校教育計画について教育庁に提出をお願いする。また、教育庁からの指示で修正の可能性があることも含めて了承したい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 「確かな学力」「社会人基礎力」の育成</p>	<p>(1) 「わかる授業」の展開 ア．生徒の実態把握および授業研究 イ．校内外の公開授業と授業アンケートを活用した授業改善の推進 ウ．図書室や AL 教室の有効活用 (2) 多様な進路実現のための取組み ア．キャリア教育計画の充実 イ．進学支援体制の構築 ウ．コース制の検証とブラッシュアップ</p>	<p>(1) ア．教育産業による基礎学力調査等を活用し、生徒の実態把握および基礎力育成重視の授業実践を進める。 イ．若手教員の授業研究会を中心に校内の授業公開・研究協議をすすめる。 ・授業研究のための研修、他校および外部の公開授業等への参加をすすめる。 ・各教科における授業アンケート結果の振り返りを授業研究に活かす。 ウ．図書室や AL 教室の活用で、調べ学習なども取り入れる。 (2) ア．3年間のキャリア教育計画を全教職員で共有する。 イ．学力向上プロジェクトを中心に、3年間を見通した進学支援体制を構築する。 ウ．かわち野今後検討 PT において、コース制の検証とブラッシュアップについて検討を進める。</p>	<p>(1) ア．教職員向け学校教育自己診断の項目4～7(教育課程・成績評価・学力向上・教育活動全般の評価と取組み)(令和元年度54.4%)を60%以上。 イ．校内授業研究会(令和元年度2回)を学期に1回以上。 ・研修等の成果報告会を行う。 ・生徒向け学校教育自己診断「授業がわかりやすい」(令和元年度51%)を55%。 ウ．生徒向け学校教育自己診断「学校の図書館を利用したことがある」(令和元年度36.6%)を50%。 (2) ア．各学年のキャリア教育計画表の作成。 イ．進学支援計画表を作成。 ・スキルアップトレーニングの活用成果の検証。 ウ．かわち野今後検討 PT を月1回以上定例開催して、諸課題について検討する。</p>	<p>(1) ア 教員向け学校教育自己診断の項目4～7は65%。新教育課程作成や評価の在り方、学力向上の取組みについて教員間の意見交換が進んだ。() イ 生徒向け学校教育自己診断「授業がわかりやすい」は50.8%。コロナの影響で本来予定していた授業研究は1学期ほとんど行えなかったが、それに代わってオンライン授業に向けた準備や研修の密度が濃かった。2学期は、10年研対象のミドルリーダーと協働して授業公開週間、研究授業や研究協議を実施した。学校教育自己診断結果は昨年度と比較してまだ変化がないが、今後に向けての動きは充実している。() スキルアップトレーニングは、コロナの影響により実施しなかった。(-) ウ 生徒向け学校教育自己診断「学校の図書館を利用したことがある」は44.6%で、指標には及ばなかった。コロナによる臨時休業等が影響していると考えられる。(-) (2) ア 各学年の計画表を作成した。() イ 基礎力診断テストを有効活用できた。また、進学支援計画表を作成した。() ウ かわち野今後検討 PT を11回開催。新教育課程に向けての取組みが飛躍的に進んだ。()</p>
<p>2 「豊かな心」の育成</p>	<p>(1) 教育相談体制の充実・教育支援委員会の有機的運営 ア．支援体制の確立 (2) 人権尊重教育の推進 ア．学校いじめ防止基本方針の徹底・いじめ対策委員会の有機的運営 イ．人権教育計画の充実 ウ．教職員の人権意識向上のための取組み (3) コミュニケーション能力を養成する教育 ア．ソーシャルスキルトレーニングの研究</p>	<p>(1) ア．支援教育コーディネーターを中心とした支援体制の構築。 ・教育支援委員会主催の職員研修の実施。 (2) ア．学校いじめ防止基本方針に従い、安全で安心な居場所としての定着をはかる。 ・いじめ対策委員会の定期開催・情報共有の徹底化。 イ．3年間の人権教育計画を全教職員で共有する。 ウ．教職員人権研修を実施する。 (3) ア．ソーシャルスキルトレーニングについての調査研究および研修を行う。</p>	<p>(1) ア．教員向け学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答(令和元年度77.5%)を80%。 ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答(令和元年度55.5%)を60%。 (2) ア．いじめ対策委員会を学期に1回以上 ・生徒向け学校教育自己診断の「学校に行くのは楽しい」の肯定的回答(令和元年度61.9%)を65%。 イ．教員向け学校教育自己診断の人権教育関連の肯定的回答(令和元年度68.3%)を70%。 ・生徒向け学校教育自己診断の人権教育関連の肯定的回答(令和元年度56.2%)を60%。 (3) ア．ソーシャルスキルトレーニングに関する研修を行う。</p>	<p>(1) ア 教員向け学校教育自己診断の肯定的回答は87.2%であった。SC、SSWを講師にした職員研修を開催し、研修で出された意見から支援に繋がった事案もあった。日常的な支援体制が定着してきた。() 生徒向け学校教育自己診断の肯定的回答は51.9%であった。コロナ禍における生徒状況も鑑みて「相談室だより」を今までより丁寧に発信し、担任から保健室、SCとの情報共有も密にしているが、生徒の意識としては教育相談に繋がっていると認識していない可能性もある。(○) (2) ア いじめ対策委員会を1学期に2回、2学期に1回開催した。(○) 生徒向け学校教育自己診断の「学校に行くのは楽しい」の肯定的回答は60.1%。コロナ禍により登校すること自体にストレスを感じる生徒も存在する。(-) イ 教員向け学校教育自己診断の人権教育関連の肯定的回答は52.7%。緊急事態宣言発令により1月13日に予定していた職員人権研修を2月15日に延期して実施した。(学校教育自己診断実施の時点では未実施) (-) 生徒向け学校教育自己診断の人権教育関連の肯定的回答は59.9%で、ほぼ指標に達している。「めぐみ」視聴やLGBT講演会など、各学年において人権HRが定着している。(○) (3) ア ソーシャルスキルトレーニングに関する研修は、コロナの影響により今年度実施しなかった。(-)</p>

<p>3 「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する力」の育成</p>	<p>(1) 規範意識と社会性を高める教育を推進 ア. 生徒指導に関する全教職員の共通理解・情報共有 イ. 遅刻者の減少とマナーの向上 (2) 生徒自らが積極的・自主的に活動できる力の育成 ア. LHR・総合的な学習の時間の計画の充実 イ. 部活動の活性化と生徒会活動の充実</p>	<p>(1) ア. 生徒の実態把握に努め、全教職員での情報共有、指導に關しての共通理解をはかる。生徒指導内規の見直しを行い、学年相互で指導内容を統一する。 イ. 遅刻を繰り返す生徒への指導の確立。 ・教職員、PTA、生徒によるあいさつ運動をすすめる。 (2) ア. 3年間のLHR計画、総合的な学習の時間の計画を全教職員で共有し、検証する。首席(1学年主任)がまとめ役となり、各学年間の調整・情報共有を行う。 イ. 新入生による部活動見学会、部活動体験の充実と退部率の調査から活性化を考える。 ・体育祭や文化祭などでは生徒の活動領域を増やし、生徒の自主活動を促進する。</p>	<p>(1) ア. 生徒向け学校教育自己診断の「学校生活について先生の指導は納得できる」(令和元年度 41.8%)を55%。 イ. 年間遅刻総数(令和元年度 2500件)を2000件。 ・生徒向け学校教育自己診断の規範意識についての肯定的回答(令和元年度 78%)を85%。 (2) ア. 教職員向け学校教育自己診断の「特別活動、学校行事等が生徒の育成につながるよう工夫、運営されている」(令和元年度 62.5%)を75%。 ・生徒向け学校教育自己診断のHR活動の肯定的回答(令和元年度 48.2%)を55%。 イ. 部活動加入率(令和元年度 37.5%)を50%。 ・生徒向け学校教育自己診断の学校行事関連の肯定的回答(令和元年度 67.9%)を70%。</p>	<p>(1) ア. 生徒向け学校教育自己診断の「学校生活について先生の指導は納得できる」は46.1%で、指標に及ばなかったが昨年度より4.3ポイント増。遅刻指導や服装指導について年度当初に共通理解を持ち、全学年共通した指導を行うことができた。夏季服装では生徒からも要望があったネクタイ・リボンの自由化を導入し、ルールの見直しを行うことができた。 (○) イ. 年間遅刻者数 2698件。 学期間の遅刻指導内容を全学年で統一して実施した。各学年には必要に応じて遅刻防止週間を設定し、遅刻数抑止に努めたが指標をオーバーしてしまった。() (2) ア. 教職員向け学校教育自己診断の「特別活動、学校行事等が生徒の育成につながるよう工夫、運営されている」は69.2%で指標に及ばないが昨年度より6.7ポイント増。HRや総合的な学習の計画はコロナ禍による影響をかなり受けている。 (-) 生徒向け学校教育自己診断のHR活動の肯定的回答は53.3%で指標に及ばないが昨年度より5.1ポイント増。コロナの影響でクラスの親睦を図る取組みが大きく制限されたが、生徒の満足度に悪影響は与えていない。(○) イ. 部活動加入率は37%である。コロナの影響により例年より部活動をアピールする機会が少なかった。(-) 生徒向け学校教育自己診断の学校行事関連の肯定的回答は68.9%で、昨年度より1ポイント増。コロナ関連で行事の目途が立てにくい状況であったが、生徒指導部と教務部が連携して新入生対象の部活動オリエンテーションや体験入部を実施することができ、例年並みの入部率を維持することに繋がった。サッカー部がスペイン人指導者を招いて中学生向け練習会を開催するなど、新たな取り組みが始まった。(○)</p>
	<p>4 地域に根ざした学校づくり</p>	<p>(1) 広報活動の充実 ア. 学校 Web ページや中学校訪問・学校説明会等の活用 イ. 地域の活動や地域に向けた取り組みの参加</p>	<p>(1) ア. 学校 Web ページで日常的に生徒の活動を発信する。 ・中学校訪問・学校説明会についての実施形態の検証を行う。 イ. 地域の行事への本校生徒の参加をすすめる。 ・地域中学校との部活動での連携をすすめる。 ・地域連携事業としての盾津中学オープンスクール、茶道の公開講座を継続する。</p>	<p>ア. 学校ブログは毎月10回以上発信。 ・中学校訪問は東大阪市・大阪市・大東市を中心に70校を目的に実施する。学校説明会への参加中学生数(令和元年度 537名)を600名以上にす。 イ. 地域のイベント参加生徒数(令和元年度 55名)を55名と維持。 ・本校の体育施設を利用して、中学校との部活動交流を行う。 ・盾津中学オープンスクール、茶道の公開講座の実施および振り返り。</p>

<p>5 教職員の長時間勤務の縮減および健康管理</p>	<p>(1) 全校一斉退庁日、ノークラブデー（部活動休養日）</p> <p>(2) 外部人材の有効活用</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校一斉退庁日は、定時退庁に努め、遅くとも午後7時までに全員退庁する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーや部活動指導員、人材バンクの有効利用をすすめる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の完全下校時間の遵守。 ・分掌等組織体制の見直し。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーの効果的配置。 ・人材バンクの活用。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の完全下校時間は概ね遵守させることができている。(○) ・オンライン授業委員会、ホームページ担当を分掌外に設置した。(○) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーを講師とした職員研修を実施するなど、活用の幅が広がった。() ・人材バンクの活用も部活動や日本語支援の面で有効利用できた。(○)
----------------------------------	---	---	---	--